



お客様本位の業務運営に関する 取組状況等のご報告

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

2026年6月

Index

01. はじめに

02. お客様本位の業務運営に関する取組状況

03. プロダクトガバナンスに関する取組状況

01.

はじめに

スパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下「当社」と言います）は、金融庁が2017年3月30日に公表した「顧客本位の業務運営に関する原則」に掲げる7原則について、その全てを2017年6月28日付で採択し「お客様本位の業務運営に関する取組方針」とその評価指標（KPI）を定め、定期的な公表を行っております。

また、2024年4月から金融庁の市場制度ワーキング・グループにおいて、顧客の最善の利益に適った商品提供等を確保するための方策に関する議論が行われ、本原則の追加事項についての提言がなされたことを受けて2024年9月26日、「顧客本位の業務運営に関する原則」に「プロダクトガバナンスに関する補充原則」を新たに定める等の改定が行われました。それに伴って、当社においても「お客様本位の業務運営に関する取組方針」の見直しを図り、2025年5月30日に本方針を改定の上、公表いたしました。

当報告では、当社の「お客様本位の業務運営に関する取組方針」、「プロダクトガバナンスに関する取組方針」および本年度の取組状況や具体的な指標（KPI）を取りまとめております。

なお、金融庁「顧客本位の業務運営に関する原則」との対応関係については、下記リンク先に掲載しております。

<https://www.sparx.co.jp/fiduciary.html>

当社は直接・間接を問わず、財産を託していただいたすべてのお客様のために、お客様本位の業務運営を果たすべく、全役職員が一丸となって本取組方針を実践し、高度の専門性と高い倫理感を磨き上げ、正直に誠実にお客様のための投資を実践してまいります。

今後とも更なるご愛顧を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

02.

お客様本位の業務運営に関する 取組状況

1.お客様の最善の利益の追求

■ 当社方針

スパークスは、投資家の皆様の取りうるリスクを考慮しつつ、手数料等を差し引いた上で、長期的に良質なリターンの最大化を追求するために、以下に取り組んでまいります。

- 魅力ある投資を常に考え、プロフェッショナルとしての見識と良心をもって誠実に投資に取り組みます。また、お客様のニーズを考慮しつつ、最善の投資とは何かを常に考え、お客様の長期的な利益を損なうような投資は行いません。
- 良いビジネスに対して、魅力的な価格で投資するために、託していただいたお客様に代わって投資対象について徹底的な調査を行うことにより、投資リスクのコントロールを図り、高いリターンを追求します。
- 投資先企業の経営陣との対話を重ね、経営課題の共有に努め、それを踏まえた上で意見を表明することで、企業価値向上の後押しとなるよう活動を行います。
- 組織体制や市場環境を考慮し、投資戦略ごとに最適な運用残高の管理を行います。最適な運用残高を管理するため、新規資金の受付停止等の措置を講ずることもあります。
- 金融商品の品質向上に向けた分析および検証を行い、期待する役割や目的の実現が困難と判断した商品については、報酬の見直しや償還、併合等の検討を進めます。

(顧客本位の業務運営に関する原則 原則2および(注))

■ 評価指標 (KPI)

- | | | | |
|---------------------|--------|-----------------------|--------|
| ■ 運用調査部門の年間調査件数 | : P7参照 | ■ 国内籍公募投資信託における運用成績 | : P8参照 |
| ■ スチュワードシップ・コードへの対応 | : P7参照 | ■ 国内籍公募投資信託におけるレーティング | : P9参照 |
| ■ 議決権行使方針・結果 | : P7参照 | | |

出所：スパークス・アセット・マネジメント（2026年3月末日現在）

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

1.お客様の最善の利益の追求

スパークスは創業以来、「マクロはミクロの集積である」との一貫した投資哲学に基づき、投資先企業の経営者との対話を中心とする徹底したボトムアップ・アプローチに基づく投資活動を実践してまいりました。

■ 運用調査部門の年間調査件数（2025年度実績）

3,576回（運用調査部門1人あたり約**170**件）

■ スチュワードシップ・コードへの対応

日本版スチュワードシップ・コードが掲げる投資先企業の持続的成長を促し、かつ受益者の中長期的な投資リターンの拡大を目指すという基本理念は当社の投資哲学と合致するものであるため、これを積極的に受け入れ、その諸原則に対する当社の対応方針および、それに基づく自己評価を下記当社Webサイトにて公表しております。

<https://www.sparx.co.jp/stewardship.html>

■ 議決権行使方針・結果

当社は当該企業の経営方針および環境・社会・コーポレートガバナンス等の要素に関する詳細な調査と十分な理解に基づき、投資先企業の選定を行っています。その上で、議決権等に係る意思表示に際しては、投資先企業の持続的成長に資するものとなるよう行っており、その結果を1～3月を第1四半期として、各四半期終了月の2ヶ月後の月初を目処に当社Webサイトにて開示することとしております。

<https://www.sparx.co.jp/vote.html>

-お客様本位の業務運営に関する取組状況-
1.お客様の最善の利益の追求



国内籍公募投資信託における運用成績（2026年3月末日現在）

ファンド名	設定来 リターン (%)	3年 リターン (年率/%)	3年 リスク (年率/%)	5年 リターン (年率/%)	5年 リスク (年率/%)	10年 リターン (年率/%)	10年 リスク (年率/%)	純資産総額 (億円)	信託報酬 (%/税抜)	設定年月日
スパークス・新・国際優良日本株ファンド（愛称：厳選投資）	803.9	23.2	13.9	11.7	15.4	13.6	15.3	2,692.5	1.64	2008/3/28
スパークス・厳選投資ファンド（野村SMA・EW向け）	196.6	24.4	13.8	12.1	15.5	—	—	1,321.4	0.81	2017/8/25
スパークス・厳選投資ファンド（確定拠出年金向け）	127.8	24.0	13.8	—	—	—	—	104.5	0.98	2020/5/28
スパークス・企業価値創造日本株ファンド	46.4	—	—	—	—	—	—	597.6	1.43	2023/5/15
スパークス・日本株式スチュワードシップ・ファンド（愛称：対話の力）	148.1	11.5	9.9	6.8	10.3	8.4	13.3	22.4	1.70	2014/12/2
スパークス・M&S・ジャパン・ファンド（愛称：華咲く中小型）	507.6	18.3	14.5	11.3	13.4	13.0	15.1	161.7	1.87	2007/1/31
スパークス・日本中小型株式ファンド（ラップ向け）	272.7	19.5	14.5	12.4	13.4	—	—	11.8	0.94	2016/9/23
スパークス・ジャパン・スモール・キャップ・ファンド（愛称：ライジング・サン）	811.4	14.6	12.5	5.6	13.3	10.4	15.6	47.9	1.70	2000/10/19
スパークス・プレミアム・日本超小型株式ファンド（愛称：価値発掘）	259.0	11.1	11.7	9.5	11.9	—	—	100.4	1.74	2015/9/30
スパークス・アクティブ・ジャパン（愛称：キョウソウのバトン）	418.6	19.6	12.0	10.3	13.0	12.0	14.0	22.7	1.38	2004/4/27
スパークス・ジャパン・オープン（愛称：キョウソウの架け橋）	472.9	19.4	11.7	10.3	12.9	12.0	13.8	30.4	1.38	2004/5/20
スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド（愛称：ベスト・アルファ）	253.3	6.0	5.8	4.6	7.1	5.9	7.2	12.0	1.80	2002/3/11
スパークス・日本株L&Sファンド（野村SMA・EW向け）	9.9	—	—	—	—	—	—	16.7	1.01	2023/11/6
スパークス・ベスト・ピック・ファンド（ヘッジ型）	-4.7	-1.1	5.5	-3.3	6.6	—	—	37.5	1.53	2018/5/1
スパークス・厳選株ファンド・ヘッジ型（ダイワ投資一任専用）	-1.1	-0.5	—	-2.8	6.5	—	—	21.2	1.13	2018/4/17
スパークス・新・国際優良アジア株ファンド（愛称：アジア厳選投資）	82.3	18.3	16.3	4.1	17.1	—	—	5.2	1.75	2017/5/26
スパークス・新・国際優良日本アジア株ファンド（愛称：日本アジア厳選投資）	124.7	25.6	16.9	11.8	16.6	—	—	45.5	1.84	2018/10/31
スパークス・アジア中東株式ファンド（隔月分配型）*	131.4	12.0	14.2	6.7	14.5	6.5	15.7	17.8	0.86	2007/11/30
スパークス・アジア中東株式ファンド（資産成長型）*	349.2	11.5	13.2	6.3	13.7	6.2	14.6	0.6	0.86	2008/11/12

* 信託報酬のほか、投資対象とする外国投資信託における運用報酬などの費用がかかります。

※年率リターンは計算期間における年率（1年換算）の収益率、年率リスクは計算期間における年率リターン（1年換算）の変動度合いを示しています。

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは、分配金（税金控除前）を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

出所：スパークス・アセット・マネジメント、QUICK（2026年3月末日現在）

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

国内籍公募投資信託におけるレーティング（2026年3月末日現在）

株式会社QUICKが算出しているQUICK投信スコア（効率性スコア）は個別ファンドを同分類（QUICK投信分類の小分類）に属する他のファンドと比較して、評価期間のシャープレシオ*の高い順で順位付けし、1～5の5段階で相対評価したものです。

スコアが5に近いほど同分類に属する他のファンドと比べてシャープレシオが高く、評価が高いことを示します。

なお、以下の条件を満たす投資信託が評価対象となります。

- ETFおよびマネープールファンドを除く国内公募の追加型株式投信
- 単位型、公社債投信は対象外
- 設定から月次ベースで3年以上経過したファンド
- 対象分類はQUICK投信分類（小分類）の全て ※同分類に属するファンドが4銘柄以下の場合はスコアの算出無し

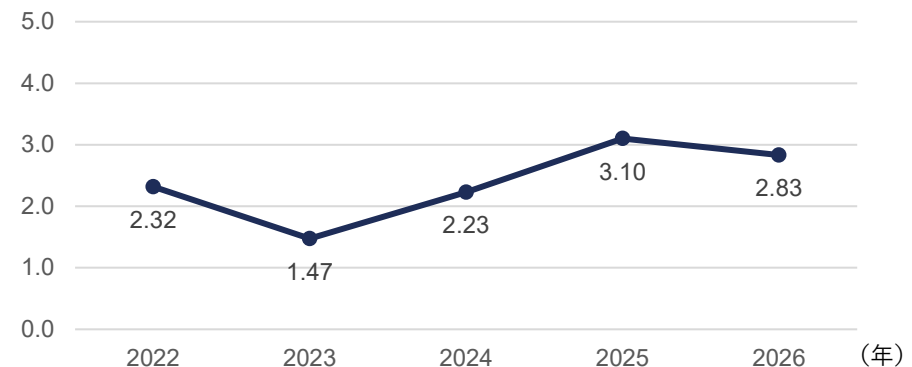
当社公募投資信託の効率性スコア（3年）

2026年3月末日現在

スコア	本数	運用残高比率
5	3本	0.6%
4	4本	35.1%
3	5本	62.1%
2	2本	1.3%
1	3本	0.9%
合計	17本	100.0%

効率性スコア（3年）の推移（純資産総額による加重平均）

2022年3月～2026年3月



*シャープレシオ：運用で取ったリスクに見合うリターンを上げたかどうかを測る指標。この数値が大きいほど投資効率が高いことを示します。

※上記はQUICK投信スコア（効率性スコア）の評価対象となったファンドのスコアのみを計算しております。

※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

出所：スパークス・アセット・マネジメント、QUICK（2026年3月末日現在）

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

2.利益相反の適切な管理

■ 当社方針

スパークスは、独立系運用会社である強みを活かして高度なガバナンス態勢を構築し、その維持に努めております。また、利益相反管理方針を定めることにより、利益相反のおそれのある取引を適切に管理し、利益相反取引によってお客様の利益が損なわれることがないようにしています。

スパークスは、インベストメント・カンパニーとして新しい投資分野をこれからも積極的に開拓してまいります。新しい投資の形を生み出す際に、新たなタイプの利益相反が発生することが想定されますが、その都度、お客様の最善の利益を優先し、利益相反管理方針についても適宜見直してまいります。

(顧客本位の業務運営に関する原則 原則3および(注))

■ 評価指標 (KPI)

■ 利益相反管理方針

当社は、当社または当社のグループ会社とお客様との間、並びに、当社のお客様相互間の利益相反のおそれのある取引に関し、法令等および利益相反管理方針に従い、お客様の利益を不当に害することのないよう適性に業務を遂行致します。当社は、法令等に従い、当社の利益相反管理方針の概要を以下のリンク先で公表しております。

<https://www.sparx.co.jp/profit.html>

■ 当社方針

スパークスは、お客様にご資金を託していただくに足りる、納得いただける報酬水準を設定し、お客様へ報酬や手数料等費用控除後のネットベースでの長期的に高いリターンを提供することを目指します。

また、お客様にご負担いただく報酬や手数料については、お客様向け資料や当社ウェブサイト等を通じて開示してまいります。

(顧客本位の業務運営に関する原則 原則4)

■ 評価指標 (KPI)

■ ネット・リターン (分配金再投資基準価額ベース)

当社では報酬や手数料等費用控除後のネットベースでの長期的に良質で高いリターンをご提供するため、当社公募投資信託 (国内籍) においては分配金再投資基準価額ベースのリターンおよび信託報酬を評価指標 (KPI) として公表しております。当該数値については、P8「国内籍公募投資信託における運用成績」をご参照ください。

4.お客様にとって必要な情報のわかりやすい提供

■ 当社方針

スパークスは、お客様向け資料や当社ウェブサイト等を通じ、スパークスの活動や考え方をわかりやすく、的確にお客様に提供するよう努めます。

(顧客本位の業務運営に関する原則 原則5および(注))

※当社は、複数の金融商品・サービスをパッケージとして販売・推奨等を行いませんので、「顧客本位の業務運営に関する原則5 重要な情報の分かりやすい提供」の(注2)は該当致しません。

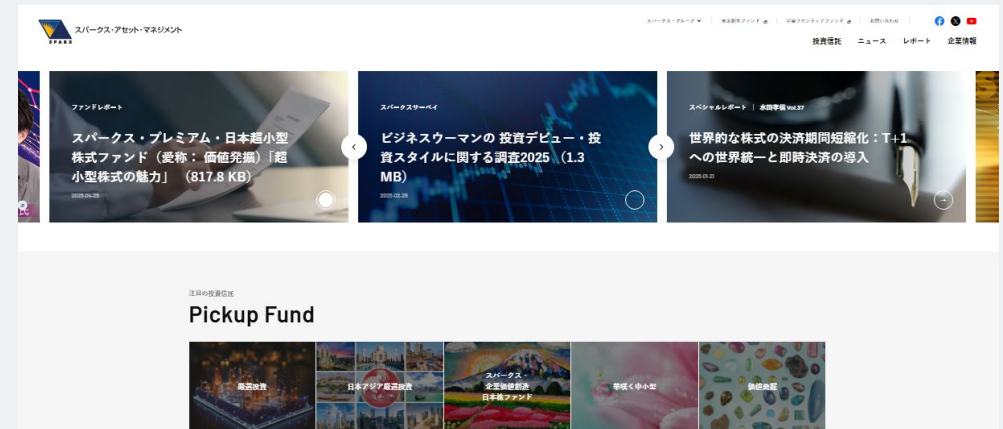
■ 評価指標 (KPI)

お客様向けコンテンツ提供 (2025年度実績)

項目	回数
スパークス公式 Facebook (投稿数)	54回
スパークス公式YouTubeチャンネル (配信数)	5本
スパークス公式YouTubeチャンネル (視聴回数)	1,214,614回
IRニュースレター(配信回数)	64回
レポート (配信数)	47回
レポート (閲覧数)	105,456回
スパークス公式 X (投稿数)	54回

出所: スパークス・アセット・マネジメント (2026年3月末日現在)

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。



当社ではホームページや各種SNS等を通じて、ファンド・マネージャーの投資に関する考え方を定期的に発信しております。

<https://www.sparx.co.jp/>

■ 当社方針

スパークスは、お客様の属性やニーズを把握し、真にお客様に資すると考える商品をご提供してまいります。
スパークスの投資は、徹底した現場調査を基とする長期投資を原則としております。従いまして、スパークスの投資に合致する属性やニーズを持つお客様とは、長期的な資産形成を目指して金融商品を保有できるお客様です。この考え方を愚直に販売会社にも伝え、お客様に共有していただけるよう取り組んでまいります。

(顧客本位の業務運営に関する原則 原則6および(注))

※当社は、基本的には個人投資家の皆様へのアクセスを販売会社に委ねており、原則として個人投資家の皆様への直接の金融商品の販売・推奨等を行いませんので、「顧客本位の業務運営に関する原則6 顧客にふさわしいサービスの提供」の(注1)、(注6)、(注7)は該当致しません。

※当社は、複数の金融商品・サービスをパッケージとして販売・推奨等を行いませんので、「顧客本位の業務運営に関する原則6 顧客にふさわしいサービスの提供」の(注2)は該当致しません。

※当社は、複雑又はリスクの高い金融商品の販売・推奨等を行っておりません。また、当社は、基本的には個人投資家の皆様へのアクセスを販売会社に委ねており、原則として個人投資家の皆様への直接の金融商品の販売・推奨等を行いませんので、「顧客本位の業務運営に関する原則6 顧客にふさわしいサービスの提供」の(注4)は該当致しません。

■ 評価指標 (KPI)

- 国内籍公募投資信託の純資産総額・商品数 : P14参照
- 国内籍公募投資信託の運用年数 : P14参照
- 国内籍公募投資信託の残高に対する分配型ファンドの本数・構成比 : P14参照
- 重要情報シートによる情報提供について : P15参照
- 勧誘方針について : P15参照

5.お客様にふさわしい金融商品の組成

国内籍公募投資信託の純資産総額・商品数（2026年3月末日現在）

純資産総額（合計）

約**5,270**億円

純資産総額（平均）

約**277**億円

公募投資信託（国内籍）商品数

19本

国内籍公募投資信託の運用年数（2026年3月末日現在）

平均運用年数（単純平均）

約**13.1**年

純資産総額による加重平均

約**13.4**年

国内籍公募投資信託の残高に対する分配型ファンドの本数・構成比（2026年3月末日現在）

当社公募投資信託（国内籍）における分配型ファンドの本数は、年1回決算のファンドが**15本**、運用残高比率は**約96.6%**です。

決算回数	ファンド本数	運用残高比率
1回	15本	96.6%
2回	3本	3.0%
6回	1本	0.3%

5.お客様にふさわしい金融商品の組成

当社では、商品の特性等を踏まえて、販売対象として想定する顧客属性を特定・公表するとともに、お客様に情報をお伝えするために重要情報シートによる情報提供に努めています。

また、勧誘方針を定めることによりそれぞれのお客様に適切な商品をお届けできる取り組みを整備しています。

■ 重要情報シートによる情報提供について

- 金融機関が提供する金融商品やサービスに関する重要な情報を簡潔に記載した「重要情報シート」の作成主体は基本的には金融商品・サービスの販売業者および仲介業者です。「商品の組成に携わる事業者が想定する購入層」などの「個別商品編」の記載内容は基本的には当社をはじめとした組成業者が情報提供を行っております。
- 当社から提供する情報については、よりお客様にとって分かりやすくなるように適宜内容を見直しております。

■ 勧誘方針について

- 当社では、お客様にとってふさわしい商品を提供できるよう勧誘方針を策定し、下記当社Webサイトにて公表しております。

<https://www.sparx.co.jp/canvass.html>

6.取組方針の定着のために

■ 当社方針

スパークスは、研修・教育等を経営の根幹に据えております。誠実な高い意識を持つプロフェッショナルを育て、本方針を実践することの意義を共有し、本方針への理解を深めることで、全役職員がお客様本位の業務運営を果たすために必要な意識を醸成します。役職員の業績評価の際に、本方針の実践を評価項目とし、明確なコミットメントを求めるとともに信賞必罰で臨み、お客様本位の業務運営の遂行を求めます。また、本方針の実施状況は、担当部門より定期的に取締役会に報告を致します。

(顧客本位の業務運営に関する原則 原則7および(注))

■ 評価指標 (K P I)

顧客本位の業務運営の浸透・定着に向けた体制整備

- 当社では2021年6月に「顧客本位の業務運営に関する評価指標 (K P I)」の見直しを行い、2021年6月21日の取締役会において採択いたしました。
- 2021年9月には「お客様本位の業務運営に関する取組方針」の見直しを図り、2021年9月13日に改訂版の公表を行いました。
- 2024年4月から金融庁の市場制度ワーキング・グループにおいて、顧客の最善の利益に適った商品提供等を確保するための方策に関する議論が行われ、本原則の追加事項についての提言がなされたことを受けて2024年9月26日、「顧客本位の業務運営に関する原則」に「プロダクトガバナンスに関する補充原則」を新たに定める等の改定が行われました。それに伴って、当社においても「お客様本位の業務運営に関する取組方針」の見直しを図り、2025年5月30日に本方針を改定の上、公表いたしました。

研修・教育等の実施状況 (2025年度実績)

研修名	対象者	実施月
入社時コンプライアンス研修	全新入社員	入社の都度
2025年6月総会に向けた実務上の留意点	全役員	2025年5月
AML/CFTに係る取引時確認方法及び実質的支配者確認等について	関係部署役職員	2025年7月
AML・CFT・CPFの現状と課題	全役員	2025年10月
インサイダー研修	全役職員	2025年12月
生成AI利用者研修	全役職員	2026年3月
入社時ITオリエンテーション	全役職員	入社の都度
情報セキュリティ教育	全役職員	毎月2回
標的型攻撃(メール)訓練	全役職員	四半期毎

■ 未来創生ファンド

当社が運用する「未来創生ファンド」では、最新の技術、ビジネスモデルを有する国内外の未公開ベンチャー企業・プロジェクトに対する投資と、投資先企業・プロジェクトの価値向上支援を行っております。「未来創生ファンド」の概要は以下のリンク先で公表しております。

<https://mirai.sparx.co.jp/>

■ 宇宙フロンティアファンド

当社が運用する「宇宙フロンティアファンド」では、宇宙関連スタートアップへの投資活動、ハンズオン支援、更には投資家様、政府の関連宇宙機関を含めた宇宙関連ステークホルダーと広く深いネットワークを構築し、投資を通じた本邦宇宙産業のエコシステム構築に貢献してまいりました。「宇宙フロンティアファンド」の概要は以下のリンク先で公表しております。

<https://space.sparx.co.jp/>

■ 再生可能エネルギーファンド

当社またはスパークス・アセット・トラスト&マネジメント株式会社がそれぞれ運用する再生可能エネルギーファンドを通じて投資している発電所について、この発電所を運営管理するスパークス・グリーンエネルギー&テクノロジー株式会社の指標を以下のリンク先で公表しております。

<https://www.sget.co.jp/sustainability/environment.html>

03.

プロダクトガバナンスに関する 取組状況

■ 当社方針

スパークスは、1989年の創業以来、「世界で最も信頼・尊敬されるインベストメント・カンパニーになる」ことを目指し、投資家の皆様を初めとするステークホルダーに経済的豊かさ、健やかさ、幸せをもたらしたいという価値観を最も大切にしています。金融というフィールドで価値を生み出し続けていくためにスパークスが大切にしていること、それは「投資を通じて価値という果実を生み出し、投資家の皆様にお返しするということ。また、その活動に対して投資家の皆様を初めとするステークホルダーに喜んでいただかなければ良い投資も長く続くことはない」ということです。このことを念頭に、スパークスのパーパス（企業の目的）である「（投資を通じて）世界を豊かに、健やかに、そして幸せにする」の実現に邁進してまいります。

（顧客本位の業務運営に関する補充原則 原則1）

■ 参考

- 企業理念*：P20および下記リンク先参照
<https://www.sparx.jp/philosophy/>
- 会社概要：P21および下記リンク先参照
<https://www.sparx.co.jp/company/outline.html>

*当社グループ親会社であるスパークス・グループ株式会社のもを記載しております。
出所：スパークス・アセット・マネジメント（2026年3月末日現在）

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

Purpose

世界を豊かに、健やかに、そして幸せにする

Vision

世界で最も信頼・尊敬される
インベストメント・カンパニーになる

Mission

世界中にもっといい投資を

当社は、主に国内外の顧客を対象に、ボトムアップ・アプローチを基軸とした投資運用業務などを提供しています。独自の投資哲学に基づく一貫した投資アプローチで、創業時から時代や人に左右されない不変的な価値を追求してまいります。

会社名	スパークス・アセット・マネジメント株式会社 SPARX Asset Management Co., Ltd.
所在地	東京都港区港南1-2-70
創業	2006年4月3日
資本金	25億円（2026年3月末現在）
株主	スパークス・グループ株式会社（100%）
事業内容	<ul style="list-style-type: none">■ 投資運用業■ 投資助言・代理業および第一種金融商品取引業 並びに第二種金融商品取引業
従業員	145名（2026年3月末日現在）

出所：スパークス・アセット・マネジメント（2026年3月末日現在）

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。



代表取締役社長 **CEO**

阿部 修平

1980年、ボストンのバブソンカレッジでMBA取得。1981年、野村総合研究所に入社後、ニューヨークのノムラ・セキュリティーズ・インターナショナルに出向し、米国の機関投資家向けの日本株のセールスに従事。1985年にニューヨークで独立し、ジョージ・ソロス氏から1億ドルの運用を任される。1989年、日本でスパークス投資顧問（現スパークス・グループ）を設立。2001年に上場。2005年、ハーバード大学ビジネススクールでAMP修了。2012年より国際協力銀行（JBIC）リスク・アドバイザー委員会委員を務める。

スパークスの投資哲学



経験豊富なアナリストによるミクロ（個別企業）の調査を通じて個別銘柄を選択。複数のアナリストが検証し、企業の実態価値を追求

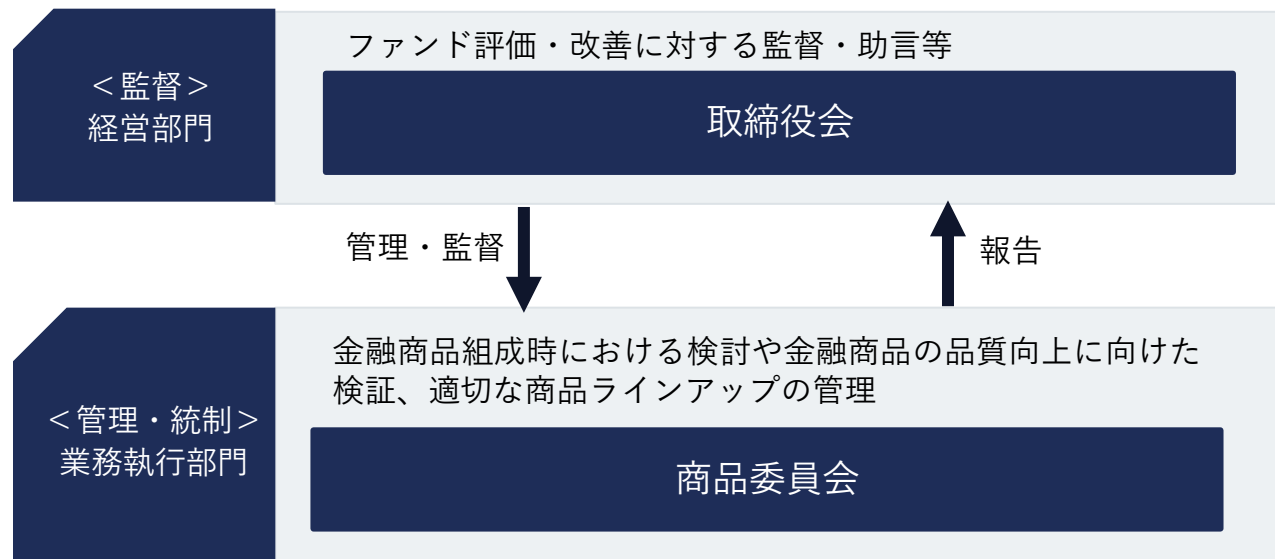
■ 当社方針

スパークスは、お客様に適切な商品提供を行うため、取締役会の下に商品委員会を設け、金融商品組成時における検討や金融商品の品質向上に向けた検証、適切な商品ラインアップの管理などを行い、金融商品のライフサイクル全体を通じたプロダクトガバナンスの実効性確保を図っております。

また、プロダクトガバナンスに係る取り組みをより実効的なものにするため、適宜プロダクトガバナンスの確保に関する体制の見直しを行ってまいります。

(顧客本位の業務運営に関する補充原則 原則2および(注))

■ 当社のガバナンス体制



審議事例

- 新商品・サービスの企画・導入
- 既存商品・既存サービスの変更、解約、停止
- 既存商品・既存サービスの定期・臨時モニタリング
- 運用指図の外部委託先に対する当初導入時のデューデリジェンス・継続的なモニタリング

など

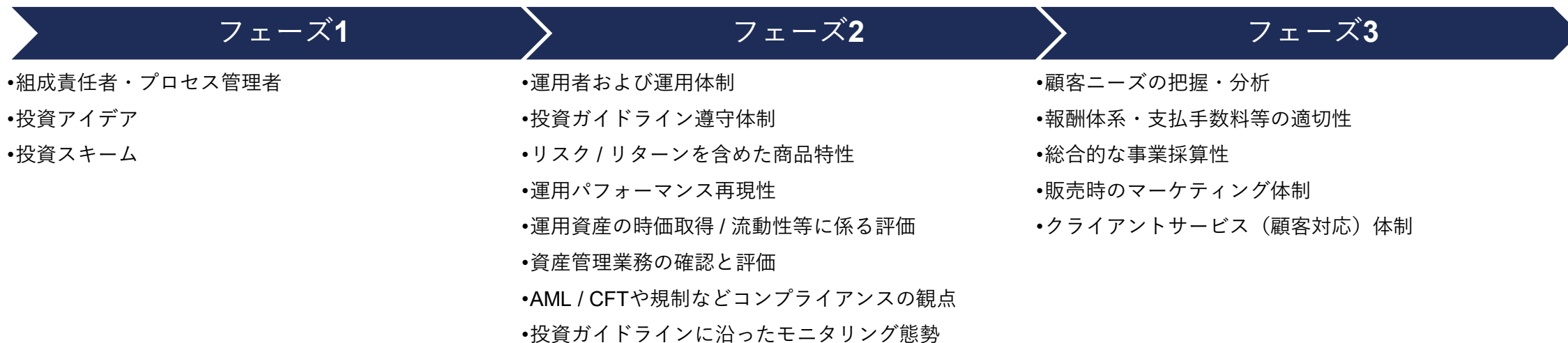
■ 当社方針

スパークスは、金融商品の組成にあたって、あらかじめ想定するお客様の属性を明確にするとともに組成する金融商品の商品性がそれに合致することを、商品の持続可能性やリスク・リターン・コストの合理性等と併せて商品委員会において検証します。
また、特定のニーズを持つお客様向けの商品については、販売会社との間で販売に関する情報（個人情報を除きます）について、連携すべきものを事前に取り決めを行った上、その連携に努め、より良い金融商品をお客様に提供するために活用する予定です。

（顧客本位の業務運営に関する補充原則 原則3および（注））

■ 当社の商品組成の流れ

当社では、商品組成の際に各フェーズごとに商品委員会を開催し、主に以下の観点で商品の組成を検証・検討しております。



-プロダクトに関する取組状況-

4.金融商品の組成後の対応

■ 当社方針

スパークスは、商品委員会において定期的に既存金融商品およびサービス、主要関係者に関するモニタリングを行い、金融商品の組成時に想定していた商品性、商品の持続可能性やリスク・リターン・コストの合理性、主要関係者の運用体制、販売体制等を検証し、金融商品の改善や見直しにつなげるとともに、プロダクトガバナンス体制の見直しにも活用してまいります。

また、特定のニーズを持つお客様向けの商品については、販売会社との間で販売に関する情報（個人情報を除きます）の連携に努め、金融商品の検証のために活用する予定です。

（顧客本位の業務運営に関する補充原則 原則4および（注））

■ 当社の商品モニタリングの流れ

当社では、商品の組成・提供・管理の各プロセスの担当部門における品質管理の体制を適切に確認するとともに、そのコスト水準や継続性の検討および判断等につき商品委員会にて審議を諮っております。



出所：スパークス・アセット・マネジメント（2026年3月末日現在）

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

■ ファンド運用効率化への取り組み

スパークスは、1989年の創業以来、「世界で最も信頼・尊敬されるインベストメント・カンパニーになる」ことを目指してまいりました。そのためにはお客様が何を考え、何を求めているのかを正しく理解した上で、真にお客様に資する商品を組成しご提供していくことが大切であると考えています。

しかしながら、ファンドの中には、残高が小規模になったことにより運用コストが相対的に高くなり、信託約款等で定めた運用方針に沿った運用が困難になるなど、結果として当初期待していた投資成果を中長期的に継続して実現することが困難になるものがあります。

当社では、そうしたファンドについては品質向上に向けた分析および検証を行い、期待する役割や目的の実現が困難と判断した商品は、信託期間満了による満期償還に加えて、法令に基づいた手続きを行った上で信託期間を短縮した繰上償還の検討も進めております。

公募投資信託ファンドの組成・償還実績

年	組成	満期償還	繰上償還
2021年	1本	0本	0本
2022年	0本	0本	0本
2023年	2本	1本	1本
2024年	0本	0本	4本
2025年	0本	0本	1本

出所：スパークス・アセット・マネジメント（2026年3月末日現在）

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

■ 当社方針

スパークスは、お客様向け資料や当社ウェブサイト等を通じ、運用体制や各ファンドを担当するポートフォリオマネージャーの投資に対する考え方等を公表します。

さらに原則年1回、顧客本位の業務運営に関する評価指標（KPI）を通じてプロダクトガバナンスに係る取り組みについて公表し、透明性向上を図ります。

また、金融商品の商品性に関する情報について販売会社と連携して、分かりやすい情報提供を行ってまいります。

（顧客本位の業務運営に関する補充原則 原則5および（注））

■ 重要情報シートによる情報提供

■ 金融機関が提供する金融商品やサービスに関する重要な情報を簡潔に記載した「重要情報シート」の作成主体は基本的には金融商品・サービスの販売業者および仲介業者です。「商品の組成に携わる事業者が想定する購入層」などの「個別商品編」の記載内容は基本的には当社をはじめとした組成業者が情報提供を行っております。

■ 当社から提供する情報については、よりお客様にとって分かりやすくなるように適宜内容を見直しております。

■ ファンド・マネージャーの投資に対する考え方

当社ウェブサイト等を通じ、毎月各ファンドの運用コメントなどにより、ファンド・マネージャーの投信に対する考え方などを発信しております。

<https://www.sparx.co.jp/>

■ 投資信託の留意点

以下の記載は、金融商品取引法第37条により表示が義務付けられている事項です。お客様が実際にご購入される個々の投資信託に適用される費用やリスクとは内容が異なる場合がありますのでご注意ください。ファンドにかかる費用の項目や料率等は販売会社や個々の投資信託によって異なるため、費用の料率はスパークス・アセット・マネジメント株式会社が運用する投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高料率を表示しております。また、特定の投資信託の取得をご希望の場合には、当該投資信託の「投資信託説明書（交付目論見書）」をあらかじめ、または同時にお渡しいたしますので、必ずご覧いただき、投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断で行っていただくようお願いいたします。

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式、公社債および不動産投資信託証券などの値動きのある証券等（外貨建て資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。

特化型のファンドは、分散投資を行う一般的な投資信託とは異なり、銘柄を絞り込んだ運用を行うため、市場動向にかかわらず基準価額の変動は非常に大きくなる可能性があります。

ロング・ショート戦略のファンドは売建て（ショート・ポジション）取引を行いますので、売建てた株式等が値上がりした場合、基準価額が下落する要因となり、株式市場の上昇局面でも損失を被るリスクがあります。また、ロング・ポジションおよびショート・ポジションの双方で損失が生じた場合、通常のファンドにおける損失よりも大きくなる可能性があります。

上記は投資信託に係るリスクの一部を記載したものであり、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なります。

■ 投資信託に係る費用について

当社にお信託（国内籍）に係る費用（料率）の上限は以下のとおりです。

■ 直接ご負担いただく投資費用

購入時手数料	上限 3.3%（税込）
換金手数料	なし
信託財産留保額	上限 0.5%

■ 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬	上限2.057%（税込）
実績報酬*	投資信託により、実績報酬がかかる場合があります。
その他の費用・手数料	監査費用、目論見書や運用報告書等の作成費用など諸費用等ならびに組入有価証券（ファンドを含む）の売買の際に発生する売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、外貨建て資産の保管費用等を信託財産でご負担いただきます。組入有価証券がファンドの場合には、上記の他に受託会社報酬、保管会社報酬などの費用がかかる場合があります。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。

* 実績報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

※ 手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ 投資信託により異なりますので、詳しくは販売会社にお問い合わせ下さい。

【 委託会社 】

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第346号

加入協会：一般社団法人資産運用業協会、日本証券業協会、

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

■ QUICK投信スコアレーティングについて

QUICK投信スコアは過去の定量データを基に分析したものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。QUICK投信スコアは株式会社QUICKが投資信託等に関する参考情報の提供を目的として作成したものであり、投資勧誘等を目的としたものではありません。QUICK投信スコアについての著作権、知的所有権など一切の権利は株式会社QUICKに帰属します。許可なく複製、転載、引用することはできません。株式会社QUICKは信頼できると判断した情報からQUICK投信スコアを算出しておりますが、正確性、完全性などを保証するものではありません。投信スコアを利用したことにより損害等を被った場合でも、株式会社QUICKは一切責任を負いません。

■ 免責事項

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性などを保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

本資料に関するお問合せ先

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

国内事業開発本部 リテール・ビジネス・デベロップメント部

電話番号：03-6711-9170

受付時間：9:00～17:00（12/31～1/3・土日祝日・振替休日を除く）



スパークス・アセット・マネジメント株式会社

〒108-0075 東京都港区港南1-2-70品川シーズンテラス6階
Tel: 03-6711-9170